

	<p>2024年 4月1日 第161号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 事務局 板橋区前連判町5-31-7 瀬田方</p>
---	--

自然との付き合い方

自然がわからなくなってきた

赤塚トンボ池のある地域は自然が豊かです。私はそれを恵みと感じ、生き物に出会えたらラッキーと思いました。古くから住んでこられた方とお話すると、以前は庭にカエルがいて踏みそうになったけど、最近はいなくなったねえ、などと話され、自然が失われていくことを惜しまれていました。赤塚梅まつりでは、いたばし水と緑の会は自然を紹介するパネルを展示し、子供たち向けに剪定枝を使った工作をし、トンボ池に来たカエルやオタマジャクシを間近に見てもらいました。2日間で2~300人の来場者がトンボ池に共感して下さいました（と私は思っています）。梅まつりに出展しなくなって6年もたつと、トンボ池への関心も薄れてしまったように思います。でもトンボ池を利用する生き物たちはやってくるし、水草の生えている自然の水辺のファンも確実にいらっしやいます。

さて、パークミーティングで、庭にカエルやヘビが出てきて嫌だ、落ち葉が溜まっていて汚い、など苦情が多いという話がでて、私はびっくりしました。赤塚城址周辺は、畑や区民農園と農家の

屋敷が多かったのですが、畑が宅地に変わり、都会育ちの住民が増えてきたのですね。

私たちも、自然を喜ばない人たちのことも考えなければと思いました。



今年は、池は干上がったまま。水たまりにカエルが産卵。卵は1塊のみ。カエルの前途は多難です。

今年のトンボ池とカエル事情

トンボ池の湧水が減少

トンボ池の水は不動の滝の向かい側のマンホールに湧く水を引いてきています。集水マンホールが泥で目詰まり？したため、新年度の予算で修理する予定とのこと。1月～2月初めごろは、湧水の流入は途絶えて、干上がってしまい、カエルは来ないかもしれないと思いました。それでもわずかに湧水は出ていて、山田さん、島田さんが水路の掃除をし、2月は雨や雪が降ってトンボ池の一部に水が溜まり、カエルの産卵の期待が高まりました。

今年 赤塚トンボ池に来たカエルと卵

2月23日カエルが出てきたとの情報が、つづいて産卵したという情報が島田さんから届きました。私が卵を撮影した3月2日、カエルのクックツの鳴く声が聞こえましたが、卵塊は見つかりませんでした。昨年は4塊だったのに、今年は3月23日まで1塊のまま。カエルが減ったのだろうか、寒暖の差が大きくてカエルたちがうまく出会えなかったのでしょうか。

美術館横の赤塚トンボ池の卵は1塊のみでしたが、他の水辺ではどうでしょうか。

① 大仏下の池

大仏下のミニトンボ池では、2月22日に1塊、3月9日にまた1塊あって合計2塊がありました。3月11日には、卵を掬い取った形跡があり、卵の一部が残っていました。

② 沖山の湿地

大量の卵が産みつけられ、大量のオタマジャクシが泳いでいたこともあった目立たない湿地ですが、ここ数年は干上がり気味で、カエルたちは来るのですが、卵が干からびてしまっ残念です。

布施さんが3月9日、3つの卵塊を確認、写真を送っていただきました。11日遠山さんと布施さんが干からびそうな卵を保護してトンボ池に入れましたが、腐敗していました。以前は水面一面に卵があったのですが今年は3だけ。布施さんによると3月16日気温も上昇し前日の雨で水が溜っていたが、卵塊はなしとのこと。今年は卵が3塊のみで、その3塊も干上がって全滅でした。

③ 前谷津川縁道、西台の池

遠山さんによるとカエルが産卵し、毎年オタマジャクシが生まれるのですが、今年はなぜか水が止められています。

さて、赤塚トンボ池と、近所の水辺を調査したところでは、卵が無事に残っているのは、赤塚トンボ池だけらしいことはショックです。カエルが嫌われているのもショックです。カエルがいなくなっても気にも留めなくなった風潮もショックです。

21日には、赤塚トンボ池の卵を包む寒天が少し溶けて、オタマジャクシの尾が動いていたようです。3月23日、トンボ池にカルガモ除けのネットを張りました。



布施さんが、昨年使ったネットを修理・作業しやすいよう縁を処理し、山田さんが網が沈まないよう支柱を置き、四隅を決めて畔の上にネットを置いて、段取りよくペグと石でネットを押さえて固定。これでオタマジャクシを狙うカルガモはどこからも侵入できません。水が流れているので、オタマジャクシがネットの目から流出するのが心配ですが、様子を見ましょう。

自然との付き合い方② 私たちの場合

私が子供のころ、夜の街灯に虫が集まり地面に落ちていました。虫はいくらでも湧いてくるようでした。今、木や花壇はあっても自然の空間はほとんどなくなり、私たちも街なかで暮らしています。水と緑の会は赤塚公園周辺の自然が残された場所にビオトープをつくりました。だから、この自然を守り、楽しみたいと思います。

- (1) トンボ池やバッタ広場（ビオトープ）を「自然」を感じる場にしたいと思います。ありふれた植物が育ち、ありふれた生き物が利用する空間として見守りましょう。
- (2) だから、そこで暮らしている動植物とお付き合いし、知り合いになりましょう。
- (3) 小さな子供達（都会っ子）がケガをしないよう、枝や笹刈には配慮しましょう。
- (4) 手入れした結果がどうなったかを観察し、検証しましょう。
- (5) (1)、(2)と矛盾するようですが、自然の力（雑草力というか、野生の力というか）は強力で、放っておくとジャングルになります。我々都会人の人力では太刀打ちできなくなりそうです。植物は夏に旺盛に成長しますが、猛暑の時期の作業は辛い。夏の作業時間を減らすために、暑くなる前に強めに刈り込みすることも考えます。初夏のころ虫たちが葉を食べているのを見るのは楽しいのですが、芋虫が葉を食べている最中でも場所と植物を選んで刈ることもあります。

自然の成り行き（遷移）をストップするには、刈り払い機の使用も検討したいと思います。

みんなが嫌いなクズを知ろう

これから夏にかけてバッタ広場で大きな葉を広げて太陽の光を受け、どんどん成長する姿を見ると、かなわないなあ、とげんなりします。

クズはどこに生えるか

クズはどこにでもはびこるわけではありません。トンボ池や水路にはほとんどないし、バッタ広場でも日あたりの悪い樹木の下にはあまり繁茂せず、盛大にはびこるのは日当たりのよい北側(郷土資料館側)で、篠原先生がおっしゃった通り北側斜面林の縁にあるマント群落なのです。

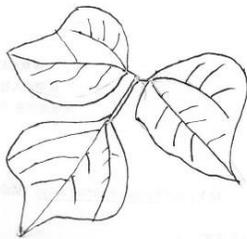
マント群落とは

マント群落とは、本来の生態は林や斜面をマントのように覆って生育しているクズなどのつる植物や低木を言い、森や林の斜面などを覆って風や直射日光を防ぎ、土砂の崩壊を抑える役目を果たしています。山の縁で見かけるフジもマント群落ですね。

バッタ広場の日当たりのよい場所は、マント群落であるクズの定位置になっていて、私たちが引き抜いても翌週行ってみるともうツルが延びています。クズを知って、付き合っていきましょう。

クズはこんな植物

クズはマメ科の植物で、葉は大きく、10cmほどの小葉3枚の三つ葉の植物です。三つ葉のクローバーもマメ科です。



花は秋の七草のひとつです。よい香りがして見上げるとクズの花が咲いていて、花びらが落ちていたりします。私はバッタ広場では花を見たことがないように思います。

花は房状に咲き、一つ一つの花はスイトピー(マメ科)のような形をしています。種は枝豆に似ていますが、食欲をそそられません。

クズの根は、食用(くず粉)、薬(葛根)になります。クズの

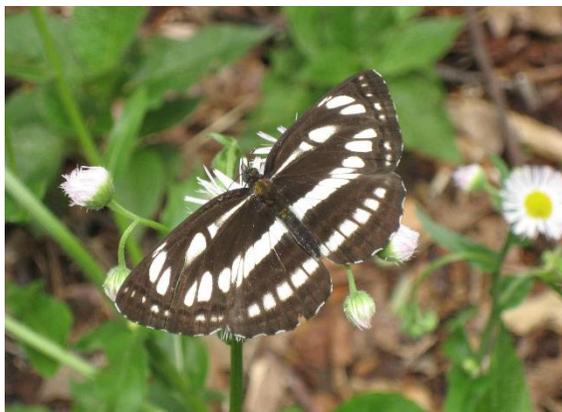
葉は家畜のえさになりました。

遠山さんによるとクズの新芽はおいしいそうです。昔はツルで籠を編んだり粗朶を束ねたりしたそうです。私はクズのツルを、粗朶を束ねるのに使いますが、リースの材料にする人もいます。

せっかく生えているのだから活用したいと根を掘り起こしてもらって持ち帰ったことがありました。ゴボウのような太さの根30cmを刻み、ミキサーにかけました。ものすごく堅くて、ミキサーが壊れるかと思いました。水にさらすと、底に沈んだ白いものがクズのでんぷんです。乾燥させたら小さじ1杯位でした。クズの香りはしましたが、手間をかけて製造したのに、この白い粉をクズ湯にして食べたか?、食べた記憶はありません。

探してみよう クズの葉を食べる虫たち

コムスジ



バッタ広場でヒラヒラと飛ぶ姿をよく見かけます。幼虫はクズの葉の葉脈を残して食べ、葉にくっついたゴミのようで見つけられません。冬は幼虫で越冬するそうです。どこにいるのでしょうか。

コフキゾウムシ



鱗片に覆われて粉を吹いたように見える5mm位のゾウムシ。初夏～夏にクズの葉の上でよく見かけます。クズの葉の縁がボロボロに食われているのはコフキゾウムシが食べた痕でしょうか？

オジロアシナガゾウムシ

1cm位。お尻が白く足が長いゾウムシ。ゾウムシは象の鼻のような口吻の甲虫です。メスはクズの茎に穴をあけて卵を産み(クズの茎に虫こぶが出来ます)、茎の中で幼虫が育ちます。冬にこの虫こぶに穴が開いていることから、秋ごろまでに成虫になって茎から脱出するらしい。成虫で越冬します。



オジロアシナガゾウムシが成虫になって脱出した跡

マルカメムシ

5mm位のコロシとした丸いカメムシ。臭いらしい。成虫で越冬するそうです。

越冬する虫たちはどこにいる？

目立たない虫たちも、きれいなチョウチョの幼虫も、多分クズの藪の下で越冬していると思います。

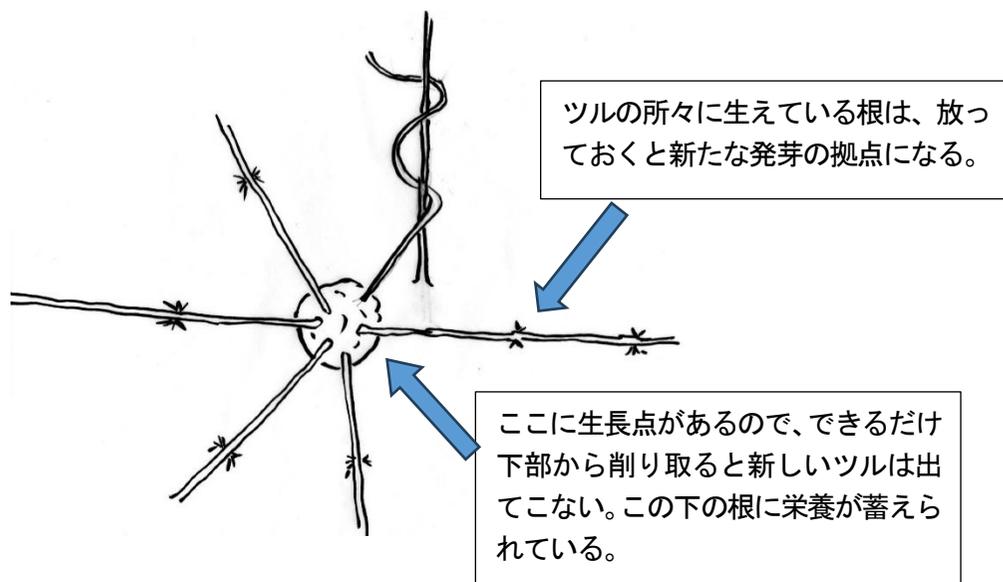


クズの茂みを利用する生き物

夏の間、茂ったクズの葉は広げた傘をよう。この傘の上に虫たちが止まり、それを狙うカマキリやカナヘビがいたりします。傘の下はどうでしょうか。ここにも生き物たちが潜んでいるはず。クズの茂みは生き物たちの食べ物であり、隠れ家になっています。

効果的にクズを抑え込むには

夏の間、クズは盛大に繁茂しますが、秋になると成長は止まり、冬には枯れて、葉は紙屑のようになります。木の枝に絡みついた茎（ツル）も枯れているように見えますが、地下茎は生きていて、暖かくなると、枯れたように見える茎にも根から栄養が送られてくると、生き返ります。下手な絵ですが見てください。つるを手繰っていくと四方八方につるが伸びている根元にいきつきます。生長点のある根元を深く削り取ると、この根元からは新しいツルは出てきません。ツルをバンバン引きはがすと、「やったぞ」という爽快感はありますが、クズはへこたれません。クズと共存する虫もいます。私たちもほどほどの付き合いをすることにしましょう。



かんきょう何でも見本市に出展

エコポリスセンターで開催されたかんきょう何でも見本市に出展しました。WEB展示と、館内展示があり、期間は2月1日から2月29日の1か月間でした。いたばし水と緑の会は両方出展しました。小林さんと坂本の二人で展示し、館内展示を見学し、29日には出展者交流会に参加しました。他の活動団体との交流は見本市の楽しいひとときでした。



会の出展内容は、トンボ池とバッタ広場を中心に、なぜビオトープなのかの紹介です。パネル展示だけで、ちゃんと見てもらえたか、見てどう思ったか、など反応はわかりません。出展者の思い入れや独りよがりもあります。だから来場者の反応や意見はとても勉強になります。

私たちは自然のテーマでクイズを出します。今回は「ミミズ、ダンゴムシ、ゴキブリはえらい」というパネルから「なぜ、ミミズ、ダンゴムシ、ゴキブリはえらいのか」というクイズを出し、分解者としての偉さを紹介しました。でも共感してもらえたか、心もとない気持ちです。

WEB展示の閲覧数はトップページで1569回、館内展示のクイズラリー参加者は556人だそうです。1か月間の総数だとすると、多かったのでしょくか。私は少ないように思います。

「地球を守ろう」の掛け声もむなしく、世界で戦争が起き、破壊され、平和がないがしろにされた生々しいニュースをテレビが伝えています。同時に毎日雑多な情報があふれています。このようななかで環境問題への関心を持ち続けるのはむずかしいことです。

情報過多の時代、展示だけでなく、人と話すこと、話し合うこと、身近な環境問題について話し合うこと、私たちが取り組んでいるテーマ（自然）について理解してもらえるよう話し合うことから、何かが始まるような気がするのですが・・・

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業をやります（カマは用意します）。

4月14日（日）10:00～11:30

5月12日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（原則は第4土曜日）

4月27日（土）10:00～11:30 バッタ広場笹刈等

5月25日（土）10:00～11:30 バッタ広場笹刈等

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

3 日暮台公園と樹林地の観察（第1土曜日） 日暮台公園前集合

4月7日（日）10:00～11:30

5月5日（日）10:00～11:30

6月2日（日）10:00～11:30

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。